
2021 年 2 月

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

教区だより

特別号

Vol.10

「今、この時に、親鸞聖人に会う」

「仏教 そぞろ歩き」

奥羽教区青森県第2組正行寺 高名 和丸氏

◎『教区だより』特別号 について

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、『教区だより』は通常の編集体制が取れなくなったため、5月より京都教務所の編集責任により、「特別号」を発行しております。

通常の体制に戻るまでの間、引き続き特別号というかたちで発行してまいりますので、教区の皆様には、ご理解いただきますようお願いいたします。



※毎月掲載しております、「ことば」は、教区駐在教導が担当しています。

『教区だより』特別号の発行について

新型コロナウイルスの猛威が世界中を不安に陥れ、私たちの日本社会も計り知れない不安の只中にあります。

これまで「当たり前」にしていたことが当たり前ではなくなった現実に向直し、あらためて考えさせられること、気づかされることも多々あるのではないかと思います。

私たちが当たり前にしてきた「日常」とは、実はどこにも約束されていない奇跡の連続であり、また人間の自我分別が思い描く理想は、常に事実の前に屈服せざるを得ないという道理も教えられます。

いま、私たちは早期の事態終息を深く願いますが、このような時だからこそ、浄土真実を宗とする宗祖親鸞聖人の教えに身をさらし、聖人の教えに出会い直していくことが大切ではないかと思っています。

このような願いから、京都教務所では「今、この時に、親鸞聖人に会う」というテーマのもと、『教区だより』特別号を発行してまいります。

京都教区教化委員長 日野 隆文

「今、この時に、親鸞聖人に会う」

「仏教 そぞろ歩き」

奥羽教区青森県第2組正行寺住職 高名 和丸

そぞろ歩き

今年(二〇二〇年)はコロナウイルス感染症の影響下で、春から、彼岸の法話が中止になったり、永代経法要が中止になったりなど、お寺から移動することが少なかつた。報恩講も、縮小だったり、一部の寺院では中止せざるをえなかつたりなど、寺院活動に色々制限があつた。そういった中で、個人的にも、この春の任期をもって教区の役職を離れ、教務所に通うこともなくなったので、結果的に、お寺にいて本を読む、そういう時間が多くなつた。

先年、雲井昭善先生が百歳を超えて亡くなられた。百歳を祝う会の時、卒業以来久しぶりに先生のお顔を見て、それが最後だった。先生には『パリ語佛教辞典』という労作がある。これまで書棚に飾っていただけだったのだが、今年は時々その辞典を引きながら、初期仏教に関する本を、研究の力量はないが、読んで立ち止まり考えて、そぞろ歩きのように読んだ。そのことを少し述べたい。

スッタニパータ

スッタニパータは数多い仏典のうちで最も古い仏典とされている。歴史的人物としての釈尊の言葉に最も近い言葉が、平易な詩句のかたちで説かれている。

スッタニパータは「経集」という意味であり、その第八番目の経は「慈経」と名づけられ、今もスリランカの民衆に親しまれている、このことである。そこに次のような釈尊の言葉がある。

一切の生きとし生けるものは 安楽であれ
sabbhe sattā bhavantu sukhitattā.

『スッタニパータ』中村元訳 岩波文庫
三七頁部分)

釈尊の心が、このような精神に貫かれていた、ということに、しみりと、まぶしさを感じた。

伝道宣言

釈尊は、尼連禪河の岸边にある菩提樹の下で悟られたと伝えられる。そして、最初に説法されたのは、バーラーナシー近郊の鹿野苑にいた五比丘に対してであると伝えられる。五比丘は、私たちになじみある大無量寿経には「尊者了本際(アンニヤー・コーンダンニヤ)、尊者正願(アッサジ)、尊者正語(ヴァッパ)、尊者大号(マハーナーマ)、尊者仁賢(バツディヤ)」(聖典一頁)と説かれている。

釈尊と五比丘の六人に加えて、ヤサというバラナシーの商主の子が比丘となり、次にヤサの四人の友人が比丘となり、次いでヤサの五十人の友人が比丘となり、合わせて六十一人の比丘の僧伽となったときに、釈尊は比丘たちに次のように語った。

「汝ら」比丘たちよ、遊行せよ。

多くの人たちの利益のために、

多くの人たちの安樂のために、

世の人びとへの哀愍のために、

人・天の義理、利益、安樂のために。

『仏教誕生』雲井昭善 平河出版一五七頁

これは「釈尊の伝道宣言」として広く知られている。雲井昭善は、「この宣言こそ、釈尊伝道の出発点であつたし、同時に終極目標でもあつたと思われます。」(『仏教誕生』一五七頁)とその意義を明らかにしている。

仏教においては、「自らの悟り」が終局目標ではなく、「多くの人々の安樂のために」ということ、それこそが終局目標なのだ、と。このことは、仏教徒が決して見失ってはならない一点であろう。

命終を迎えて

終局目標、とは、根本の深いねがいといえよう。そのことを受け止めるうえで大きな手掛か

りになると思われるのが、釈尊の命終について述べられている『大パリニツバーナ経』である。八十歳になられた釈尊は、人間の身体について、阿難に告げている。「生じ、存在し、つくられ、壊滅する性質のもの(壊敗の法)、それが人間の身体であり、わたしの身体である。それが壊滅しないように、ということが、この世でどうして有り得ようか。このような道理は存在しない」と。そして、阿難に命じて比丘たちを講堂に集めて、「わたしが説いてきた法を良くたもち、実践し、実修し、盛んにしなさい」と告げる。

そのことは、

多くの人々の利益のために、

多くの人々の幸福のために、

世間の人々を憐れむために、

神々と人々との利益・幸福になるためである

(『大パリニツバーナ経』中村元訳 岩波文庫九六頁)

雲井訳と中村訳で「安樂⇨幸福、哀愍⇨憐れむ、人・天⇨神々と人々」と訳し方が異なるが、伝道宣言のことばがそのまま定型句として繰り返されている。

釈尊の終局目標 大乘

これらの初期経典を通して考えると、歴史的

人物としての釈尊の伝道は、「多くの人たちの安樂のために」(伝道宣言)を出発点とし、「一切の生きとし生けるものは 安樂であれ」(スッタニパータ)という深いねがい、言うなれば「大乘」のねがいに貫かれた伝道の歩みだったのではなからうか。

そのねがいの中心を一言で押さえるならば、「安樂(sukha)」ではないだろうか。この安樂という大きな問いを真正面に見据えて、立ち上がっていった仏教運動がある。安樂世界(salvavat)を経典に説きいただいていた仏教運動である。

その教えに、宗祖親鸞聖人は、「浄土真宗は大乗のなかの至極なり」(聖典六〇一頁)と帰していったのではなからうか。

安樂世界は仏さまの心によつて開かれた世界である。スッタニパータに、仏教で利他行として説かれる四無量心(慈悲喜捨)の本のことばが述べられている。「捨」は宗祖が「きらわず、えらばず、へだてず」(聖典五九五頁)と述べたような、きらう心、えらぶ心、へだてる心が捨てられている仏さまの心である。「たとえ病になろうとも、あなたを決してきらわない」という仏さまの心に呼びさまされるとき、生きる勇気をいただくのではなからうか。

教務所からのお知らせ

《敬弔》

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

近江第八組 信願寺住職

神田 信之

二〇二〇年十月二十日

七十八歳

〔敬称略〕

《京都教区得度学習会について》

左記の通り、開催いたします。

期 間 二〇二二年三月二十日・三十一日

※三十一日午後より得度審査を行います。

講 師 教区教化委員

本山本願部室衆

対象者 二〇二一年五月以降に得度式の受式を

予定されている方。

申込み 三月十一日（木）までに、参加申込書

を京都教務所に提出ください。

※詳細は、先月同封いたしました開催案内をご

参照ください。

※日程中の声明練習は、あくまで声明の基本を復習する時間ですので、事前にお稽古を十分に重ねていただき、学習会にご参加ください。

《緊急事態宣言発出中の京都教務所の事務対応について》

政府から不要不急の外出自粛が要請されていることから、できるだけ教務所への来所を控えていただき、電話・FAX・メール・郵送・振込による対応を基本とさせていただきます。詳細は「緊急事態宣言発出中の京都教務所の事務対応について」（1月15日付発送）をご参照ください。

また、先般お送りしました「京都教区新型コロナウイルス感染症感染予防ガイドライン」及び「京都教務所（常磐会館）感染予防ガイドライン」が教区ホームページよりダウンロードできます。ご利用ください。

《新型コロナウイルス感染症に関する寺院・教会ガイドライン》の紹介

宗派において標記ガイドラインが作成されました。また、「コロナ対策チェックシート」や寺院名を入力すればそのまま利用できる「コロナウイルス感染防止（啓発ポスター）」もダウンロードできます。法要や研修会等における感染予防対策にご利用ください。

※真宗大谷派東本願寺のホームページよりダウンロードできます。

「新型コロナウイルス感染症への対応について」も随時更新されますのでご確認ください。

<http://www.higashihonganji.or.jp/>

駐在日記

そんなに映画をたくさん見たわけではないけれど、それでも自分なりに見た中で一番好きな映画は？と聞かれたら、『ナヴィの恋』（1999年公開、中江裕司監督）だ。沖縄の離島を舞台に、都会から帰ってきた奈々子（西田尚美）とナヴィおばあ（平良とみ）、恵達おじい（登川誠仁）たちが繰り広げる素朴なストーリーだが、哀愁と希望に満ちたラストシーンは何度見ても眼が潤む▼中でも恵達おじいを演じる小柄なおじいさん、登川誠仁の朴訥な演技と何とも言えない三線（さんしん）の弾き語り引き込まれた。後から知ったのだが、登川誠仁は演技は全くの素人だが沖縄民謡の世界では「早弾きの名手」と言われた超大御所だったのだ▼登川誠仁にすっかり魅了され、CDを買いよく聴いていた12、3年ほど前、沖縄研修旅行に行きテンションが上がりっぱなしだった私は、ついにリトル沖縄大阪市大正区で三線を買ってしまう。ところが、全く上達せず三線を手にする日はいつの間になくなり、妻からは「せっかく高い買い物したんだから練習したら」と言われながらも、飾る場所もない我が家の隅にケースに入れられたまま三線は長い間眠っていた▼ところが、先日中3の娘が「三線を引きたい」と言い出し、エレクトーンを習っているおかげで楽器に馴染みやすいのか、すぐに乾いた三線の音が部屋の中で弾け出した（簡単な曲だけれども）▼登川誠仁はすでに亡くなったけれど、沖縄の風景が浮かぶ、切なくも心躍る琉球の音色は響き続ける。（駐在教導 谷本 修）

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

「教区だより」 特別号 Vol.10

発行人 日野 隆文（真宗大谷派京都教務所長）

発行所 真宗大谷派京都教務所

〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入

Tel : 075 (351) 5260 Fax : 075 (351) 5256

発行日 2021（令和3）年2月1日

メールアドレス : kyoto@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派京都教区ホームページ

京都教務所

検索

